

平成26年度 全国学力・学習状況調査結果について(小6・中3)

佐伯市では、市内の小学校6年生と中学校3年生を対象とし、平成26年4月22日(火)に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。以下の結果は佐伯市全体の小学校6年生児童・中学校3年生生徒による集計結果となります。

【実施教科】

小6…国語、算数の2教科

中3…国語、数学の2教科

【実施内容】

国語A・算数A・数学A…主として「知識」に関する問題

国語B・算数B・数学B…主として「活用」に関する問題

児童生徒質問紙、学校質問紙・・・生活習慣や学習環境等に関する学習状況調査

【用語解説】

※A問題(主として「知識」に関する問題)

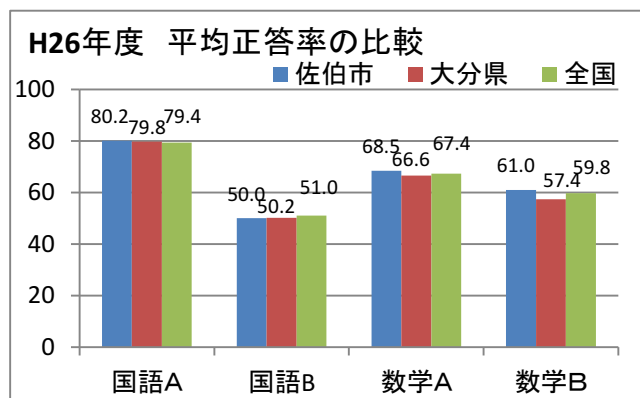
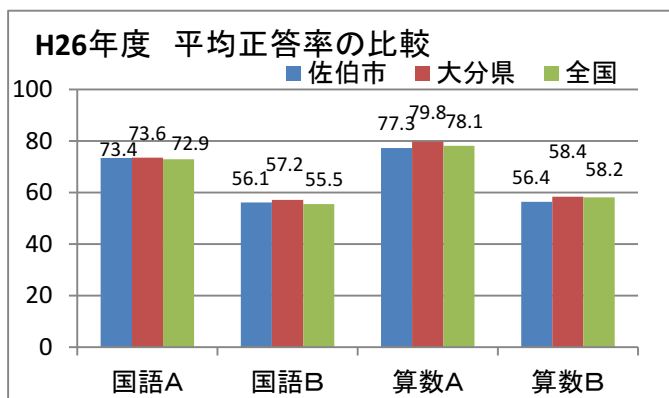
身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっておくことが望ましい知識・技能などを中心とした出題

※B問題(主として「活用」に関する問題)

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした出題

【平均正答率(全問題数のうち、どのくらいの問題を正答したかの割合)[%]の全体比較】

	小学校6年生				中学校3年生			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
佐伯市	73.4	56.1	77.3	56.4	80.2	50.0	68.5	61.0
大分県	73.6	57.2	79.8	58.4	79.8	50.2	66.6	57.4
全国	72.9	55.5	78.1	58.2	79.4	51.0	67.4	59.8



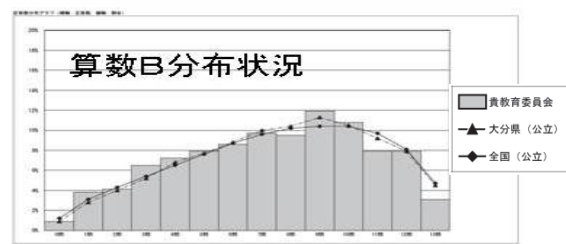
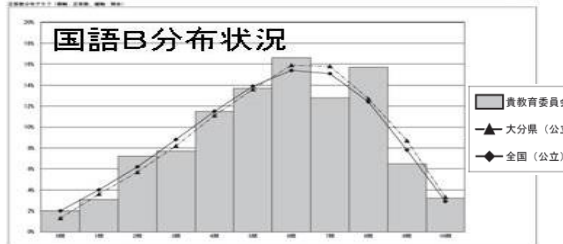
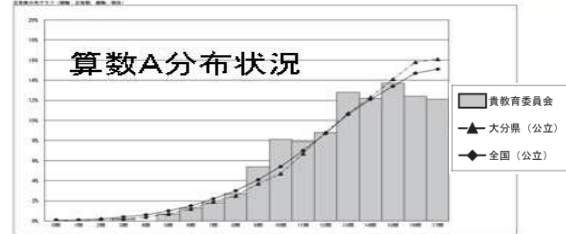
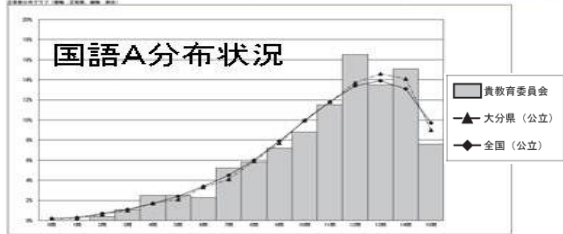
○A問題では、全国の平均正答率に比べ、小学校国語において0.5ポイント上回り、算数において0.8ポイント下回っています。中学校では、国語では0.8ポイント、数学でも1.1ポイント上回る結果となっています。小学校、中学校ともにA問題については全国とほぼ同程度と見られます。

○B問題では、全国の平均正答率と比べ、小学校の国語において0.6ポイント上回り、算数において1.8ポイント下回っています。中学校では、数学で1.2ポイント上回り、国語で1.0ポイント下回る結果となっています。B問題においても、小学校、中学校ともに全国とほぼ同程度と見られます。

○本市の正答率は、昨年度までと比較して、全国・県平均を上回る項目が増えており、着実に学力は向上しているといえます。

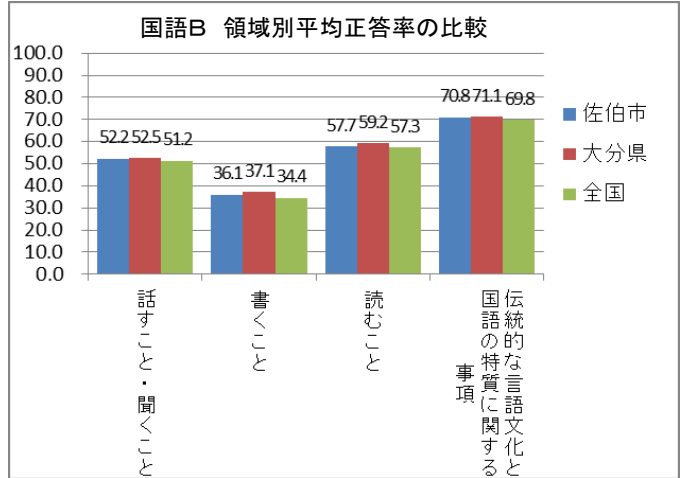
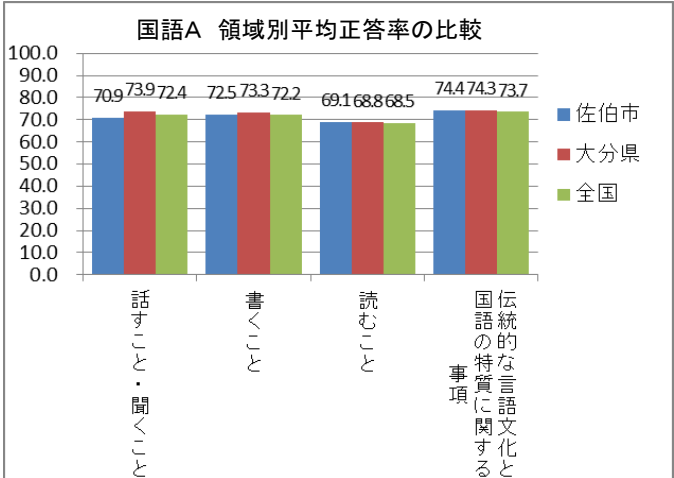
○苦手な領域があったり活用問題等に課題があったりすることから、引き続き学力向上に取り組む必要があります。

	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
佐伯市	11.0/15	73.4	5.6/10	56.1	13.1/17	77.3	7.3/13	56.4
大分県	11.0/15	73.6	5.7/10	57.2	13.6/17	79.8	7.6/13	58.4
全国	10.9/15	72.9	5.5/10	55.5	13.3/17	78.1	7.6/13	58.2



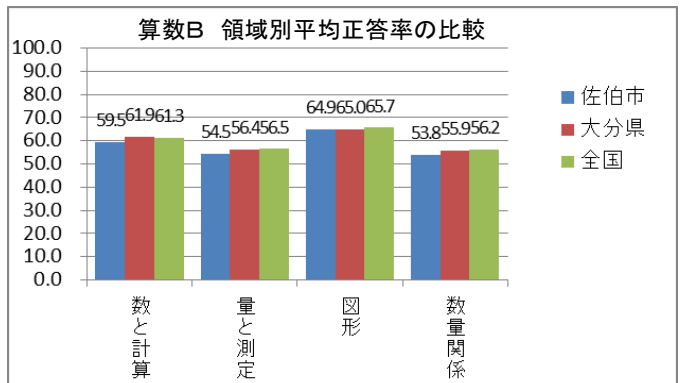
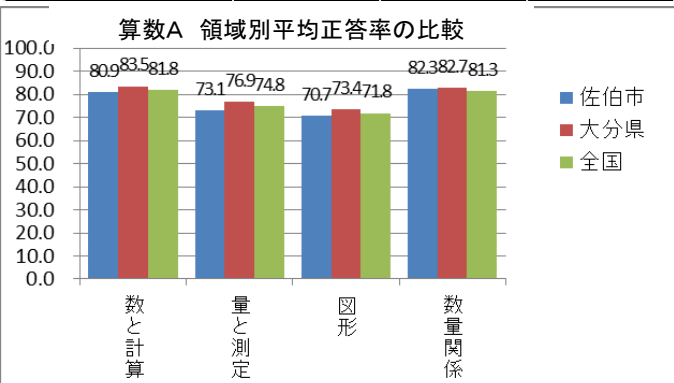
国語A	平均正答率(%)		
領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	70.9	73.9	72.4
書くこと	72.5	73.3	72.2
読むこと	69.1	68.8	68.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.4	74.3	73.7

国語B	平均正答率(%)		
領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	52.2	52.5	51.2
書くこと	36.1	37.1	34.4
読むこと	57.7	59.2	57.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.8	71.1	69.8

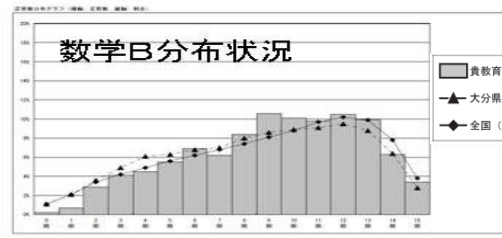
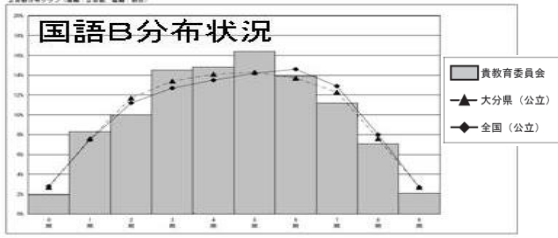
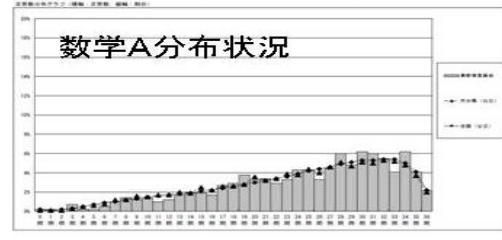
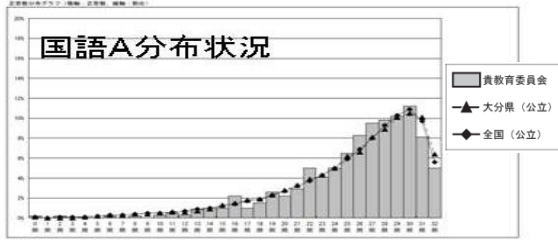


算数A	平均正答率(%)		
領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
数と計算	80.9	83.5	81.8
量と測定	73.1	76.9	74.8
図形	70.7	73.4	71.8
数量関係	82.3	82.7	81.3

算数B	平均正答率(%)		
領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
数と計算	59.5	61.9	61.3
量と測定	54.5	56.4	56.5
図形	64.9	65.0	65.7
数量関係	53.8	55.9	56.2

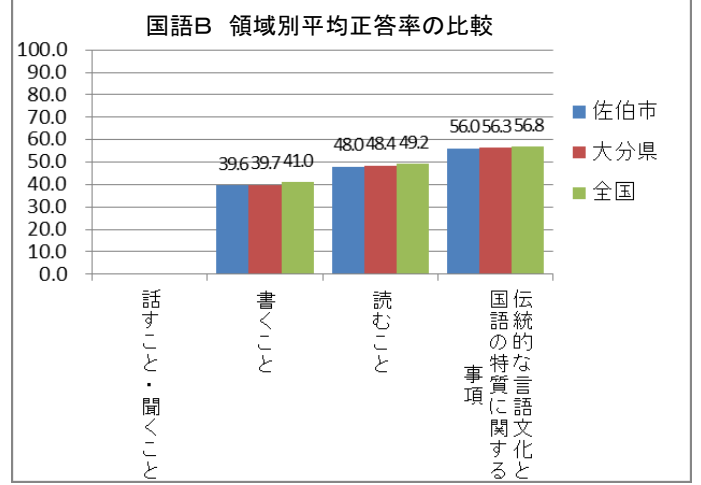
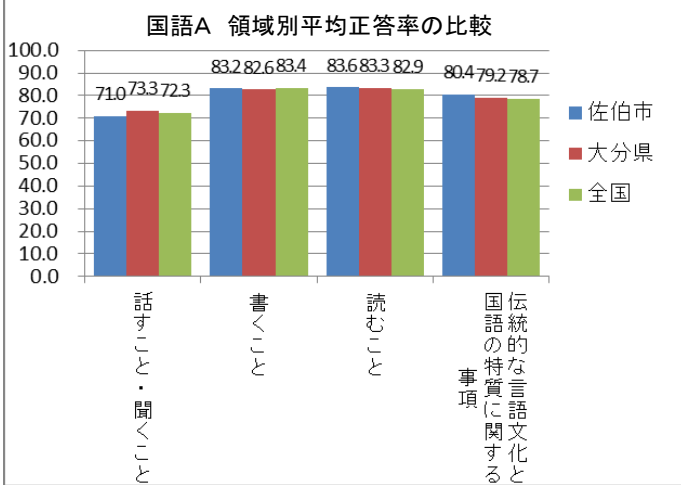


	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
佐伯市	25.7/32	80.2	4.5/9	50.0	24.6/36	68.5	9.2/15	61.0
大分県	25.5/32	79.8	4.5/9	50.2	24.0/36	66.6	8.6/15	57.4
全国	25.4/32	79.4	4.6/9	51.0	24.3/36	67.4	9.0/15	59.8



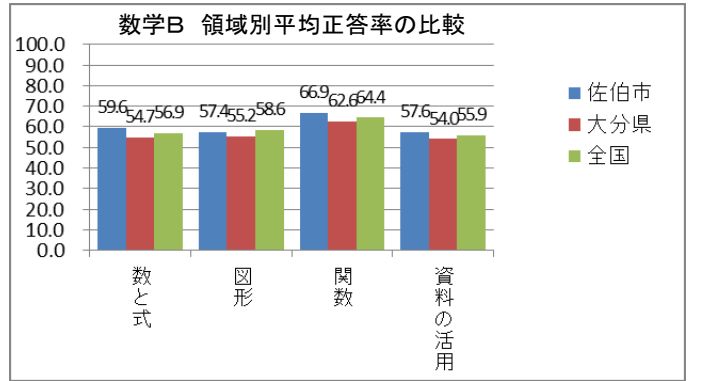
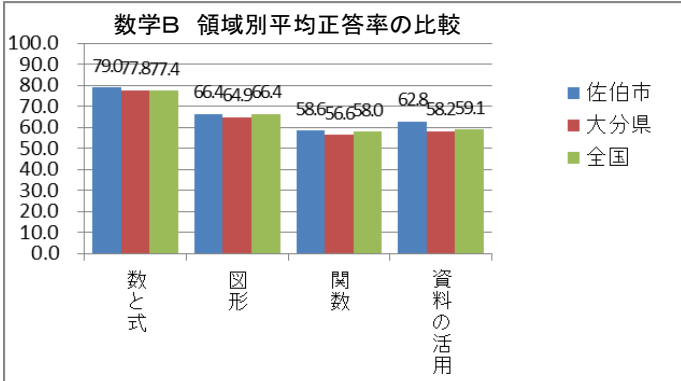
国語A	平均正答率(%)		
領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	71.0	73.3	72.3
書くこと	83.2	82.6	83.4
読むこと	83.6	83.3	82.9
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.4	79.2	78.7

国語B	平均正答率(%)		
領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと			
書くこと	39.6	39.7	41.0
読むこと	48.0	48.4	49.2
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	56.0	56.3	56.8



数学A	平均正答率(%)		
領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
数と式	79.0	77.8	77.4
図形	66.4	64.9	66.4
関数	58.6	56.6	58.0
資料の活用	62.8	58.2	59.1

数学B	平均正答率(%)		
領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
数と式	59.6	54.7	56.9
図形	57.4	55.2	58.6
関数	66.9	62.6	64.4
資料の活用	57.6	54.0	55.9



小学校国語

佐伯市の平均正答率	73.4%
大分県の平均正答率	73.6%
全国の平均正答率	72.9%

A問題の分析

(主として「知識」に関する問題)

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数15問

- ◇平均正答率80%以上の問題・・・5問(大分県4問、全国4問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・7問(大分県7問)
- ◆平均正答率60%未満の問題・・・3問(大分県3問、全国4問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・8問(大分県7問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<おおむね理解しているとみられる問題(正答率80%以上)>

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ◇〔1一(1)〕「道路の標識を見る」の「標識」を読む。(89.6%)
- ◇〔1一(2)〕「街灯がつく」の「街灯」を読む。(84.5%)
- ◇〔1一(3)〕「勢いよく走り出す」の「勢い」を読む。(80.0%)
- ◇〔1二(1)〕「料理をのせたさらを運ぶ」の「さら」を漢字で書く。(98.4%)
- ◇〔6二〕文の意味のつながりを捉え、適切なものを選択する。(84.0%)

<課題があるとみられる問題(正答率60%未満の問題)>

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ◆〔1二(2)〕「勝利をいわう」の「いわう」を書く。(54.7%)
→「祝」という漢字を正しく書くことに課題がある。
- ◆〔2二〕故事成語(百聞は一見にしかず)の使い方として適切なものを選択する。(45.5%)
→故事成語の意味と使い方を理解することに課題がある。

【書くこと】

- ◆〔3〕情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する。(54.0%)
→情景描写の効果を捉えることに課題がある。

②具体的な改善方策

○漢字を文脈にあわせて正しく読んだり書いたりする。

- ・漢字の正しい発音を理解し、その読み仮名や送り仮名を表記することができるように指導する。また、漢字を書くことの指導においては、点画の数やとめ、はね、はらいなど、間違えやすいところを特に注意し、正しく書くことができるようにするとともに、文脈に合わせて、適切に使えるように指導する。

○実生活において、習得した漢字を適切に使う。

- ・習得した漢字の音訓、部首、点画などについて、同音異義語や類似した字形などと比較しながら、正しい書き方を日常的に確認するような習慣をつける。

○故事成語の意味や使い方を正しく理解し、実生活の中で用いる

- ・長い間使われてきた故事成語に興味を持ち、その意味を調べてカードに記録するなど、先人の知恵や教訓、機知に触れることができるよう、実生活の中で意図的に活用する機会を設けるなどして計画的に指導する。

○読むこととの関連を図り、物語を創作する。

- ・物語の表現の特徴とその効果について捉えるために、物語などの文学的な文章を読むことの授業において、描写の工夫(行動や表情、会話、風景など)の効果を理解することができるように指導する。

小学校国語

B問題の分析

(主として「活用」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	56.1%
大分県の平均正答率	57.2%
全国の平均正答率	55.5%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数10問

- ◇平均正答率70%以上の問題・・・2問(大分県2問、全国2問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・7問(大分県10問)
- ◆平均正答率50%未満の問題・・・3問(大分県2問、全国4問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・3問(大分県0問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

〈おおむね理解しているとみられる問題(正答率70%以上)〉

【読むこと】

- ◇〔2一〕付箋の内容を関係付けて、原田さんの疑問を書く。(70.8%)
- ◇〔3一(1)〕【詩1】の表現の特徴として適切なものを選択する。(81.1%)

〈課題があるとみられる問題(正答率50%未満の問題や全国の平均正答率との差がある問題)〉

【話すこと・聞くこと】

- ◆〔1二〕林さん⑤の質問の狙いとして適切なものを選択する。(58.0%)
→質問の意図を捉えることに課題がある。

【書くこと】

- ◆〔1三〕大野さん②の発言に対し、手書きの立場から質問か意見を書く。(32.4%)
→相手の発言を引用して質問や意見を述べることに課題がある。
- ◆〔2二〕付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く。(24.5%)
→分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書くことに課題がある。

【読むこと】

- ◆〔3二〕【詩2】に対する山田さんの解釈として適切なものを選択する。(49.0%)
→詩の解釈における着眼点の違いを捉えることに課題がある。

②具体的な改善方策

○目的に応じて適切な質問をする。

- ・互いの立場や意図を明確にして質問をし合うために、多様な質問の観点とそれに基づく話形を具体的に指導する。

(例)「私は、～について…と考えています。Aさんの考えと同じ(違う)ところは○○という点です。」
「～についての意見はありましたが、～についてはどのように考えますか。」

○互いの立場や意見をふまえた上で、質問や意見を述べる。

- ・討論において、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えとの共通点や相違点を明確にして聞く。話し手の発言内容の中から、中心となる考え、理由や根拠などを、短い言葉で要約してメモなどに書き留めるよう指導する。

○分かったことや疑問に思ったことを、条件に応じてまとまった文章にして書く。

- ・必要な情報を取り出し、分類したり関係づけたりした上で全体を通して分かったことや考えたことを一定のまとまった文章にして書くために、構成や記述などについて、「二文を一文で書く」や『例え』という言葉を使って書く」等の条件を示すようにする。

○詩の解釈における着眼点の違いを捉える。

- ・詩を様々な着眼点から解釈し、考えたことを交流するために、自分の考えと相手の考えとを比較しながら、共通点や相違点を整理することができるように指導する。その際、互いの考えを分類して、どのような着眼点に基づくものかを明確にする。

小学校算数

佐伯市の平均正答率	77.3%
大分県の平均正答率	79.8%
全国の平均正答率	78.1%

A問題の分析

(主として「知識」に関する問題)

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数 17問

◇平均正答率 80%以上の問題・・・9問 (大分県 11問、全国 11問)

◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・6問

◆平均正答率 60%未満の問題・・・3問 (大分県 2問、全国 2問)

◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・11問

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<おおむね理解しているとみられる問題 (正答率 80%以上) >

【数と計算】

◇ [1(1)] $46 + 57$ を計算する。(97.7%) ◇ [1(2)] 903×6 を計算する。(96.2%)

◇ [1(3)] $9 - 0.8$ を計算する。(83.6%) ◇ [1(4)] $2 \div 5$ を計算する。(92.3%)

◇ [1(6)] $1 \div 3 + 2 \div 5$ を計算する。(91.0%)

【数量関係】

◇ [1(5)] $100 - 20 \times 4$ を計算する。(85.4%)

◇ [9] 正五角形の1辺の長さを□cm、まわりの長さを△cm としたときの、□と△の関係を正しく表している式を選ぶ。(82.4%)

【図形】

◇ [5(1)] 直径 6cm の円の円周を求める式と答えを書く。(83.3%)

【量と測定】

◇ [5(2)] 1 cm^3 の立方体を基に、示された直方体の体積を求める。(80.0%)

<課題があるとみられる問題 (正答率 60%未満の問題) >

【数量関係】

◆ [2(2)] 示された図を基に、青いテープの長さが白いテープの長さ (80cm) の 0.4 倍に当たる
ときの青いテープの長さを求める式を選ぶ。(50.7%)

→割合が 1 より小さい場合でも、比較量の求め方が (基準量) × (割合) になることの理解に課題がある。

【量と測定】

◆ [4(2)] 8 m^2 に 16 人いる A の部屋について、 1 m^2 当たりの人数を求める式を書く。(59.4%)

→単位量当たりの大きさを求める除法の式を立てることに課題がある。

【図形】

◆ [6] コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ。(49.6%)

→作図をする際に用いられる、平行四辺形の性質を判断することに課題がある。

②具体的な改善方策

○基準量と比較量の関係を的確に捉え、それに基づいて演算の決定が確実にできるようにする。

・計算の指導に当たっては、計算の意味について理解すること、計算の仕方を考えること、計算に習熟し、活用できるようにすることの三者をしっかりと指導する。

○既習のわり算の意味と関連付けて、単位量あたりの大きさを求める式を理解できるようにする。

・混み具合について、単位量当たりの人数で比べる際、図などを用いて具体的な操作を示し、的確に式を立て 1 m^2 当たりの人数を求めるようにする。

○作図の操作と図形の性質を関連づけて作図の意味を理解できるようにする。

・平行四辺形の作図においてコンパスを用いる理由を話し合うなど、作図の操作とその意味を考えると、作図は図形の約束や性質に基づいていることを理解できるようにする。

小学校算数

B問題の分析

(主として「活用」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	56.4%
大分県の平均正答率	58.4%
全国の平均正答率	58.2%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数13問

◇平均正答率70%以上の問題・・・2問(大分県3問、全国2問)

◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・2問

◆平均正答率50%未満の問題・・・4問(大分県4問、全国4問)

◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・11問

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<おおむね理解しているとみられる問題(正答率70%以上)>

【数と計算】

◇〔1(1)〕示されたかけ算の中で積に同じ数字が並ぶものを選ぶ。(94.4%)

◇〔2(1)〕6・7月の水の使用量 1500m^3 は、プールに入る水の量 250m^3 の何倍かを求める式と答えを書く。(80.2%)

<課題があるとみられる問題(正答率50%未満の問題や全国の平均正答率との差がある問題)>

【量と測定】

◆〔3(1)〕昨年の昼食時間を見直したときに、今年は準備の時間を何分間にすればよいかを書く。(33.3%)
→問題を解決するために、必要な情報を考え、整理し、与えられた複数の条件に合う時間を求めることに課題がある。

◆〔3(3)〕示された分け方でスープを分けたとき、残りの30人にスープを分けることができるかどうかを選び、そのわけを書く。(30.5%)
→必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を言葉と数を用いて記述することに課題がある。

【数と計算】【数量関係】

◆〔4(1)〕㊦のリズムを3回目に演奏するのは何小節目かを書く。(57.8%)

→繰り返されるリズムの規則性(周期)を見だし、それを基に小節数を求めることに課題がある。

◆〔5(2)〕使いやすい箸の長さの目安を基に、「一あた半」の長さを表している図を選ぶ。(45.2%)
→示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することに課題がある。

◆〔5(3)〕妹の身長を基に、妹の使いやすい箸の長さの求め方と答えを書く。(29.5%)

→答えを求めるまでに複数の段階がある問題において、示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を言葉や式を用いて記述することに課題がある。

②具体的な改善方策

○条件に合う時刻や時間を筋道立てて考えることができるようにする。

・日常生活において、複数の条件に合わせて行動の計画を立てる際、算数で学習した時刻や時間の読み方や求め方が必要になるとともに、筋道立てて考えることが大切となる。情報を図の中に整理して表し、解決の筋道を立てることや、二つの条件を一度に扱うのではなく、条件を一つずつ図に表していくようにする。また、時間の増減を実感をもって捉える上で、図と式を関連付けて考えるようにする。

○問題の解決に必要な情報を選択し、根拠となる事実を関連付けることで、解決の方法や判断の理由を説明することができるようにする。

・問題を解決した過程を説明する際には、問題(文章や図、表、グラフ等)から必要となる情報を選択するとともに、根拠となる事実を関連付けて、判断の理由を的確に示すようにする。

○事象を観察して数量の変化や対応を図や表に表し、そこから規則性を見いだすことができるようにする。

・日常生活の事象や他教科の場面を取り上げ、その中にある数量の関係から規則性を見いだすようにする。その際、事象を図や表に表し、数量の関係を調べる活動を取り入れる等の工夫をおこなう。

○小数倍の意味を図と関連付けることで、基準量や比較量の間を的確に捉えることができるようにする。

・問題の場面から、基準量と比較量を捉え、数量の関係(基準量、比較量、割合)を図に表したり、図から読み取ったりする。その際、具体的な場面を数直線のような抽象的な表現に高めていくことで、既習の倍の関係と同じようにみるようにする。

○示された情報を整理し、解決の見通しを立てることができるようにする。

・問題を解決する際には、示された情報を整理して解決の見通しを立て、それに基づいて筋道を立てて考えるようにする。その際、求めることや、解決に用いる情報を整理して捉え、それらを基に解決の見通しを立てるようにする。

中学校国語

A問題の分析

(主として「知識」に関する問題)

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数 32問

- ◇平均正答率 80% 以上の問題・・・18問 (大分県 17問、全国 16問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・19問 (大分県 18問)
- ◆平均正答率 60% 未満の問題・・・2問 (大分県 3問、全国 5問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・12問 (大分県 14問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<おおむね理解しているとみられる問題 (正答率 80% 以上) >

【話すこと・聞くこと】

- ◇〔1一〕 フリップの効果を説明したものとして適切なものを選択する。(80. 0%)

【書くこと】

- ◇〔2一〕 主人公の気持ちの変化にふさわしい空の描写として適切なものを選択する。(92. 4%)
- ◇〔2二〕 仲直りができてうれしい主人公の気持ちを印象深く伝えるために書き換える。(80. 6%)
- ◇〔4一〕 ウェブページの項目として適切なものを選択する。(92. 4%)
- ◇〔7一〕 文章を書くために使った付箋として適切なものを選択する。(81. 9%)

【読むこと】

- ◇〔3一〕 主人公が「素通りが出来なくなる」と思った理由として適切なものを選択する。(92. 4%)
- ◇〔3二〕 「ひとしくおれの方を見た」の意味として適切なものを選択する。(82. 3%)
- ◇〔5二〕 「次々に簡略化していった」理由を説明したものとして適切なものを選択する。(85. 7%)

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ◇〔8一3〕 漢字を書く (計画を行動にウツす)。(82. 6%)
- ◇〔8二1〕 漢字を読む (アユの稚魚を放流する)。(84. 7%)
- ◇〔8二2〕 漢字を読む (このホールは音響効果が良い)。(89. 3%)
- ◇〔8二3〕 漢字を読む (新記録に挑む)。(97. 1%)
- ◇〔8三イ〕 適切な語句を選択する (先のことは分からないが、とりあえず準備だけはしておこう)。(96. 2%)
- ◇〔8三エ〕 適切な語句を選択する (笑い声が満ちている家には幸運が訪れることを、「笑う門には福来たる」という)。(90. 7%)
- ◇〔8三オ〕 適切な敬語を選択する (お客様、私が校内をご案内します)。(91. 4%)
- ◇〔8三カ〕 適切な語句を選択する (あの人は、単刀直入にものを言う)。(89. 5%)
- ◇〔8三キ〕 適切な語句を選択する (忙しい兄は、休日にはのびのびと羽を伸ばす)。(92. 9%)
- ◇〔8五1〕 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す (まうけて)。(88. 0%)

<課題があるとみられる問題 (正答率 60% 未満の問題) >

【話すこと・聞くこと】

- ◆〔6一〕 二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する。(50. 1%)
→互いの発言を検討して共通点や相違点を整理することに課題がある。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ◆〔8四〕 国語辞典で調べたことを基に、語句の意味を書く (英気を養う)。(53. 5%)
→複数の語の意味を的確に合わせて理解することに課題がある。

②具体的な改善方策

○話合いの目的を踏まえた上で、観点に沿って発言を整理する。

- ・複数の案から一つに絞り込む話合いを行う際には、目的に応じて発言を整理しながら、議論の焦点を明確にする必要がある。どのような観点で整理するかを明確にし、どのような図表を活用するのが有効かを考え、共通点や相違点など様々な観点に沿って発言を整理する学習活動を行うようにする。

○辞書を活用する。

- ・辞書を活用する際には、辞書の記述の仕方を理解した上で活用する。また、難語句を調べる際には、文脈に沿って語句の意味を選び、それが文中の意味として適切かどうかを確認する。

中学校国語

B問題の分析

(主として「活用」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	50.0%
大分県の平均正答率	50.2%
全国の平均正答率	51.0%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数9問

- ◇平均正答率70%以上の問題・・・0問(大分県0問、全国0問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・0問(大分県3問)
- ◆平均正答率50%未満の問題・・・4問(大分県4問、全国4問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・8問(大分県6問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題(正答率50%未満の問題や全国の平均正答率との差がある問題)>

【書くこと】

- ◆〔1三〕ノートを基に、標語から伝わってくる〈メッセージ〉と〈表現の工夫とその効果〉を書く。(47.5%)
→作者の意図、表現の工夫やその効果などについて考えたことを、根拠を明確にして書くことに課題がある。
- ◆〔2三〕水の中に浸すと、切手をきれいにはがすことができる理由を書く。(27.2%)
→目的に応じて適切な情報を得て、伝えたい事柄が明確に伝わるように書くことに課題がある。
- ◆〔3三〕落語の演じ方を選択し、なぜそのように演じるのかを、本文を根拠に殿さまの気持ちを想像して書く。(44.1%)
→登場人物の言動に表れているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある。

【読むこと】

- ◆〔2一〕本とインターネットの内容を比較したときの説明として適切なものを選択する。(28.4%)
→複数の資料を比較して読み、目的に応じてそれぞれの要旨を捉えることに課題がある。

②具体的な改善方策

○観点を決めて、書いた文章について意見を述べ合う。

- ・書いた文章を交流する際には、どのような観点で意見を述べ合うのかを明確にする必要がある。その上で、単に感想を述べ合うだけでなく、叙述を具体的に取り上げたり、自分の考える代案を示したりするなど、根拠を示して具体的に考えを述べ合うようにする。例えば、短い言葉で表された標語を読み合う際には、それぞれの標語が伝えようとしていることについて確認するとともに、用いられた表現の技法によってどのような効果が生まれるか、作者が伝えたいメッセージが伝わっているかなどを交流する。

○内容が正確に伝わるように説明する。

- ・本や文章を読んで得られた知識は、他の人に向けて説明することで一層明確になるとともに定着が図られる。説明する際には、複数の情報を正確に理解し、相手や目的に応じて取捨選択したり関係付けたりして、説明する内容を適切に表現することが求められる。その際、次の二点を意識するように指導する。

- ①本や資料から得た情報を正確に理解して整理しているか
- ②伝えたい内容を正確かつ分かりやすく述べているか

○根拠を明確にして自分の考えを書く。

- ・登場人物の心情や作者の思いなどを想像するためには、自分が感じたことや考えたことの根拠を、文章の一節や文章の展開に照らして明らかにする。例えば、落語の一部を朗読したり演じたりする課題を設定し、読み方や演じ方の工夫などを検討する学習活動をおこなう。その際に、登場人物の心情、人物相互の関係、話の展開などを根拠として、読み方や演じ方の妥当性について検討し、自分の考えをより確かなものにする。

○目的に応じて文章の要旨を的確に捉える。

- ・目的に応じて文章の要旨を的確に捉えるためには、文章の特徴を踏まえて内容を正確に理解する必要がある。例えば、説明的な文章を読んで、更に調べたい内容を明確にした上で、様々な資料から必要な情報を的確に得る学習活動をおこなう。その際、読む目的を明確にした上で、中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、必要な情報を正しく得るように指導する。

中学校数学

A問題の分析

(主として「知識」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	68.5%
大分県の平均正答率	66.6%
全国の平均正答率	67.4%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数36問

◇平均正答率80%以上の問題・・・11問(大分県10問、全国10問)

◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・20問(大分県14問)

◆平均正答率60%未満の問題・・・12問(大分県13問、全国12問)

◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・14問(大分県22問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<おおむね理解しているとみられる問題(正答率80%以上)>

【数と式】

◇〔1(1)〕 $3/4 \div 5/6$ を計算する。(84.7%)

◇〔1(3)〕 -7 の絶対値を書く。(83.0%)

◇〔1(4)〕35を基準にして38を正の数で表す。(93.3%)

◇〔2(2)〕 $10xy \div 5x$ を計算する。(92.1%)

◇〔2(3)〕 $a=2$ 、 $b=3$ のときの式 ab^2 の値を求める。(83.7%)

◇〔2(4)〕男子 m 人と女子 n 人が1人2個ずつ持った風船の合計数を、 m と n を用いて表した式を選ぶ。(91.2%)

◇〔3(1)〕一元一次方程式を解くとき、移項が行われている式変形として正しいものを選ぶ。(91.1%)

【図形】

◇〔4(1)〕線対称な図形を完成する。(93.3%)

◇〔5(1)〕直方体の1つの面の対角線を含む直線と平行な面を書く。(84.0%)

◇〔5(2)〕三角形をそれと垂直な方向に一定の距離だけ平行に動かしてできる立体の名称を選ぶ。(82.3%)

【関数】

◇〔10(2)〕反比例の性質を表した記述を選ぶ。(83.7%)

<課題があるとみられる問題(正答率60%未満の問題)>

【数と式】

◆〔2(1)〕「プールの水の深さは120cm以下である」という数量の関係を表した不等式を書く。(50.3%)
→数量の大小関係を不等式に表すことに課題がある。

◆〔3(2)〕一元一次方程式 $(x-1)/3=2$ を解く。(58.6%)
→分数を含む一元一次方程式を解くことについて課題がある。

【図形】

◆〔4(2)〕与えられた方法で作図される直線について、正しい記述を選ぶ。(58.4%)
→線分の垂直二等分線の作図の方法についての理解に課題がある。

◆〔4(3)〕与えられた角が回転移動した後の角を選ぶ。(43.3%)
→図形の回転移動について、移動前と移動後の2つの図形の辺や角の対応を読み取ることに課題がある。

◆〔5(4)〕円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ。(36.9%)
→円錐の体積を、底面が合同で高さが等しい円柱の体積と関連付けて理解することに課題がある。

◆〔6(3)〕 n 角形の内角の和を求める式について、六角形の内角の和を求める過程を読み、 $(n-2)$ が表すものを選ぶ。(53.1%)
→ n 角形の内角の和を求める式 $180^\circ \times (n-2)$ における $(n-2)$ の意味の理解に課題がある。

【関数】

◆〔9〕与えられた表を基に、宅配サービスの重量と料金の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する。(33.5%)
→関数の意味の理解に課題がある。

◆〔10(3)〕 $s=vt$ を基に、速さ v が一定のとき、時間 t と道のり s の関係について、正しい記述を選ぶ。(55.7%)
→与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることを判断することに課題がある。

◆〔10(4)〕反比例のグラフから表を選ぶ。(45.7%)
→反比例について、グラフと表を関連付けて理解することに課題がある。

◆〔11(1)〕変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ。(42.3%)
→一次関数の表において、変化の割合の意味の理解に課題がある。

【資料の活用】

◆〔13(1)〕生徒60人の通学時間の分布を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める。(50.5%)
→与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることに課題がある。

◆〔13(2)〕ハンドボール投げの記録の分布を表したヒストグラムから、記録の中央値を含む階級を選ぶ。(58.4%)
→中央値の意味を理解し、ヒストグラムから中央値が含まれる階級を判断することに課題がある。

②具体的な改善方策

○数量の大小関係を不等式に表すことができるようにする。

- ・事象において比べようとする数量に着目し、それらを数や文字を用いた式で表し、不等号を用いて数量の大小関係を適切に表すことができるように指導する。

○分数や小数を含む一元一次方程式などを解くことができるようにする。

- ・分数や小数を含む一元一次方程式を解く際に、解く過程やその結果を確かめる活動を通して、等式の性質を適切に用いて正しく解を求めることができるように指導する。また、求めた数をもとの式に代入してその数が解であるかどうかを確かめ、解が正しくない場合には解く過程を振り返って見直す活動を取り入れるようにする。

○作図した図形の特徴を、作図の方法に基づいて捉えることができるようにする。

- ・基本的な作図の学習において、作図した図形の特徴を作図の方法に基づいて捉え、何が作図できたのかを理解できるように指導する。示された作図の方法に沿って生徒自らが作図する機会を設け、その上で、個々の手順によってできる点や線分の特徴を図形の性質と関連付けて捉えられるようにする。

○移動前と移動後の2つの図形の関係を捉えることができるようにする。

- ・ある図形がきまりにしたがって移動していることを視覚的に捉えたり、図形の移動の性質を見いだしたりする活動を通して、移動前と移動後の2つの図形の関係を捉えられるように指導する。その際、実際に図形を紙で作ったり、コンピュータを利用したりするなどして、図形の移動を視覚的に理解できるようにする。

○柱体と錐体の体積の関係を、実感を伴って理解できるようにする。

- ・柱体の体積と錐体の体積との関係を予想し、その予想が正しいかどうかを、模型を用いた実験による測定を行って確かめる活動を通して、柱体と錐体の体積の関係を実感を伴って理解できるように指導する。

○多角形の内角の和を表す式の意味を理解できるようにする。

- ・多角形の内角の和を表す式が、多角形を三角形に分割することによって導き出されることを理解できるように指導する。その際、様々な多角形を考察することを通して、多角形の内角の和を表す式を導いたり、その式の意味を読み取ったりする場面を設定することが考えられる。

○様々な事象の考察を通して、関数の意味を理解できるようにする。

- ・日常的な事象の中にある2つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見いだす活動を通して、関数の意味を理解できるように指導する。その際、独立変数(○)と従属変数(△)との違いを意識して「△は○の関数である」という形で表現できるように指導する。

○具体的な事象における数量の関係を表す式から、関数関係を読み取ることができるようにする。

- ・具体的な事象における数量の関係を表す式から、関数関係を読み取ることができるように指導する。その際、数量の関係を表す式において、ある数量を定数とみたり変数とみたりして2つの数量の関係を調べ、その式の意味を捉える活動を取り入れることが考えられる。

○反比例について、表、式、グラフなどを関連付けて理解できるようにする。

- ・反比例の特徴を、表、式、グラフを相互に関連付けて理解できるように指導する。その際、表やグラフから比例定数を読み取って式に表したり、比例定数の符号や絶対値の違いによる変化の様子の違いを捉えたりする活動を取り入れることが考えられる。

○一次関数の変化の割合の意味を理解し、それを求めることができるようにする。

- ・一次関数 $y = ax + b$ の変化の割合を求めることができるように指導する。その際、表における x 、 y の値の変化の様子を調べ、変化の割合の意味を理解できるようにすることが考えられる。

○相対度数の必要性和意味について理解できるようにする。

- ・相対度数の必要性和意味についての理解を深めることができるように指導する。その際、ある階級の度数の総度数に対する割合を求めて、資料の傾向を読み取る活動を取り入れることが考えられる。

○代表値の必要性和意味について理解できるようにする。

- ・目的に応じてデータを収集して整理し、資料を代表する値について考察しながら資料の傾向を読み取る活動を通して、代表値の必要性和意味について理解できるように指導する。

中学校数学

佐伯市の平均正答率	61.0%
大分県の平均正答率	57.4%
全国の平均正答率	59.8%

B問題の分析

(主として「活用」に関する問題)

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数 15問

- ◇平均正答率70%以上の問題・・・5問(大分県5問、全国5問)
 - ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・11問(大分県0問)
 - ◆平均正答率50%未満の問題・・・5問(大分県5問、全国5問)
 - ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・4問(大分県15問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<おおむね理解しているとみられる問題(正答率70%以上)>

【図形】

- ◇〔1(1)〕案内図を基に、経路を示すはり紙を選ぶ。(75.6%)
- ◇〔1(2)〕外から校舎を見た図で、案内図に示された非常口の位置を選ぶ(94.2%)

【関数】

- ◇〔3(1)〕与えられた表やグラフから、人数が24人のときに6.0秒かかったことを表す点を求める。(90.1%)
- ◇〔6(2)〕兄の速さを変えないとき、弟と兄の進む様子を表したグラフを選ぶ。(81.5%)

【資料の活用】

- ◇〔5(1)〕スティックゲームの遊び方を基に、1本表、3本裏のときの得点を求める。(82.0%)

<課題があるとみられる問題(正答率50%未満の問題や全国の平均正答率との差がある問題)>

【数と式】

- ◆〔2(3)〕2つの偶数の商についての正しい記述を選び、その理由を説明する。(47.0%)
→予想された事柄が成り立たないことを判断し、その事柄が成り立たない理由を説明することに課題がある。

【図形】

- ◆〔4(1)〕2つの線分の長さが等しいことを証明する。(34.3%)
→図形の性質を、構想を立てて証明することに課題がある。
- ◆〔4(2)〕 $\angle BAC = 110^\circ$ 、 $BD = AD$ のとき、 $\angle DAE$ の大きさを求める。(23.7%)
→付加された条件の下で証明を振り返って考え、証明の過程で見いだした事柄や証明された事柄を用いることに課題がある。

【関数】

- ◆〔6(3)〕兄の出発時間を変えないとき、兄の進む様子を表すグラフの両端の2点を求め、そのグラフから兄の速さを求める方法を説明する。(29.0%)
→グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を数学的に説明することに課題がある。

【資料の活用】

- ◆〔5(2)〕1点と2点のとりやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する。(33.3%)
→不確実な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

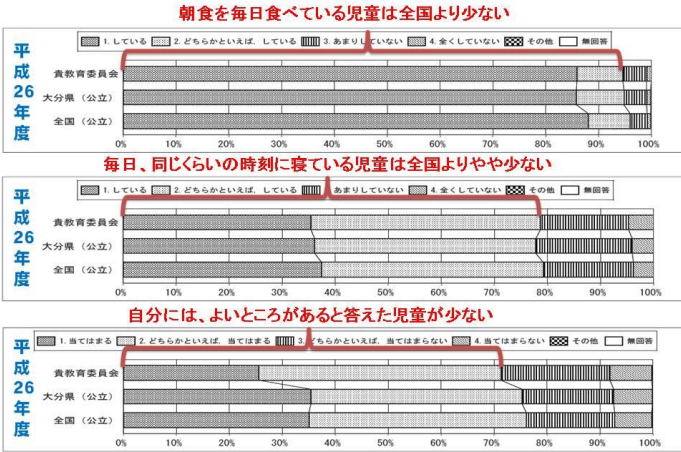
②具体的な改善方策

- 事柄が成り立つかどうかを判断し、その理由を説明できるようにする。
 - ・与えられた事柄や予想した事柄について、条件に当てはまる具体例をあげ、それが結論を満たすかどうかを調べる活動を取り入れ、事柄が成り立つかどうかを判断できるように指導する。また、文字式を用いて根拠を明らかにして説明したり、反例をあげて説明する活動を取り入れたり、事柄が成り立つかどうかの判断に応じて理由を説明できるように指導する。
- 証明の構想において方針を立て、証明を書くことができるようにする。
 - ・証明を書くことができるようにするために、証明を構想する活動を取り入れることが大切である。その際、結論を導くために何がわかればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見いだしたりすることで証明の方針を立てることができるように指導する。
- 証明の過程や結論を基に、発展的に考えることができるようにする。
 - ・発展的に考えることができるようにするために、与えられた性質を証明するだけでなく、条件を変えたり証明を読みだりすることを通して、新たな性質を見いだすことができるように指導する。
- 問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする。
 - ・様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、何をどのように用いればよいかを明らかにできるように指導する。その際、表、式、グラフなどの「用いるもの」とその「用い方」について説明する場面を設定することが考えられる。
- 不確実な事象について予想を確かめるための方法を考え、起こりやすさの傾向を捉える。
 - ・不確実な事象の起こりやすさを予想し、それを確かめられるようにするために、統計的確率と数学的確率のどちらを用いるかを選択できるようにし、その上で起こりやすさの傾向を捉えることができるように指導する。
- 判断の理由を数学的な表現を用いて的確に説明できるようにする。
 - ・不確実な事象の起こりやすさを判断し、その理由を説明できるようにすることが大切である。その際、説明すべき事柄とその根拠の両方を示し、確率を用いて的確に説明する場面を設定することが考えられる。

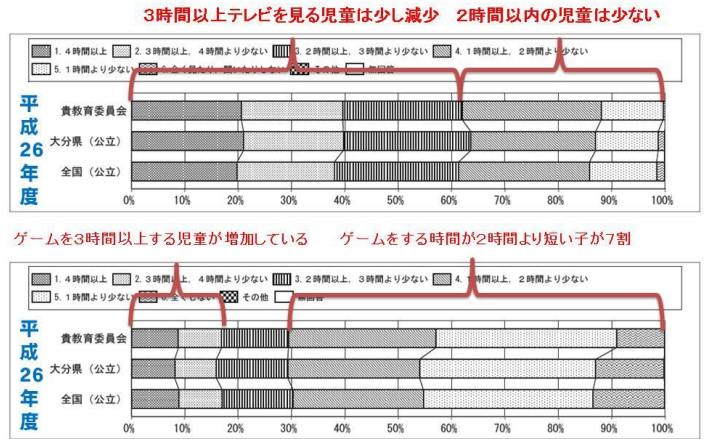
平成26年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

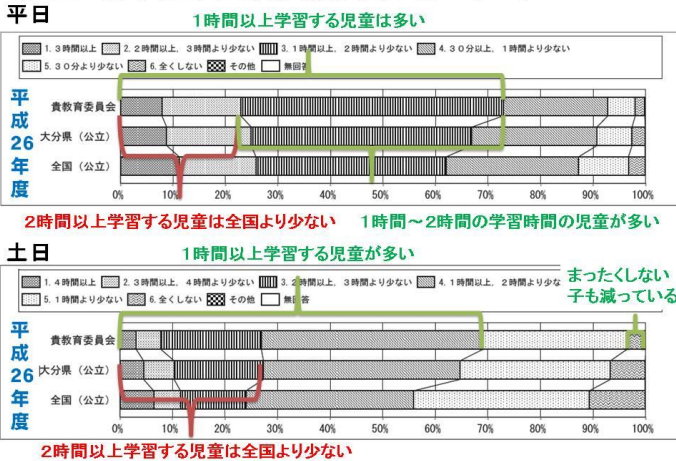
基本的な生活習慣、自尊意識（小6）



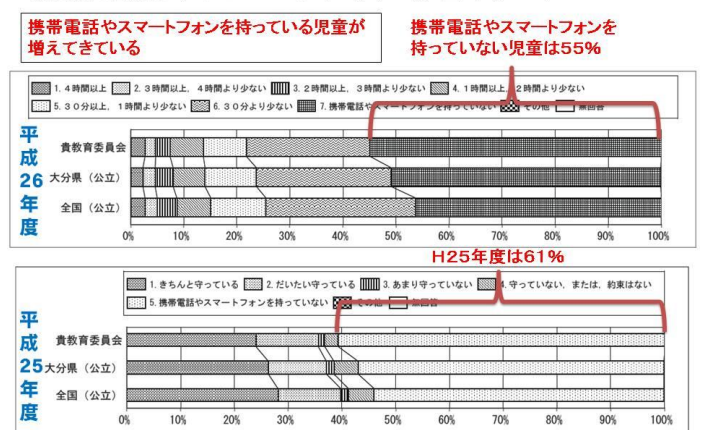
平日のテレビ、ゲーム等（小6）



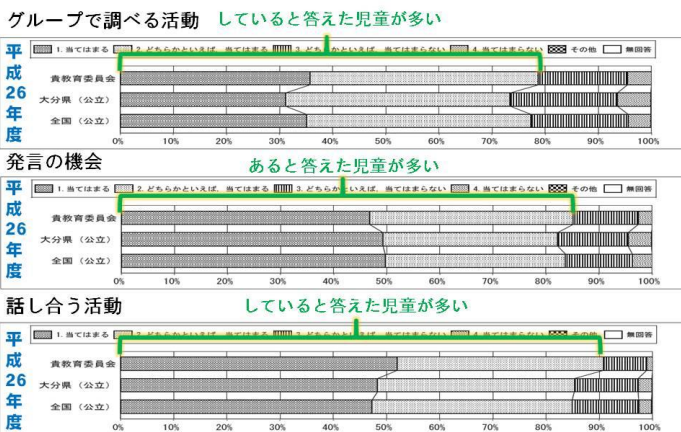
学習時間（塾や家庭教師含む）小6



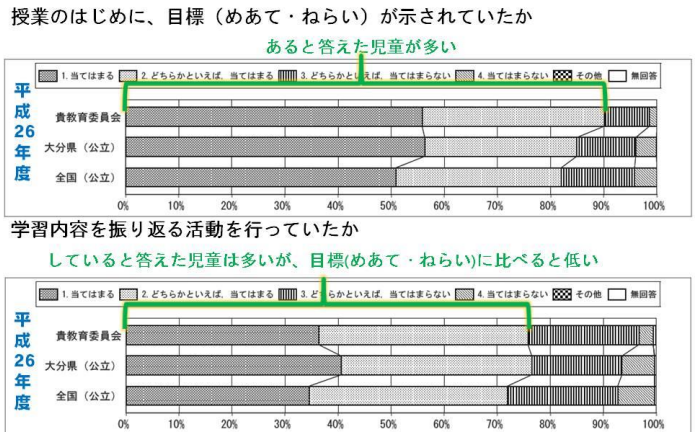
携帯電話やスマートフォンなど（小6）



小学校授業の様子

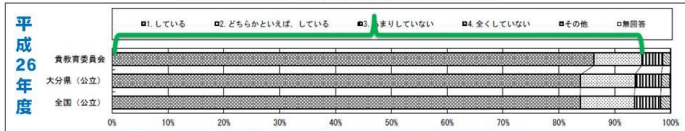


小学校 授業の様子

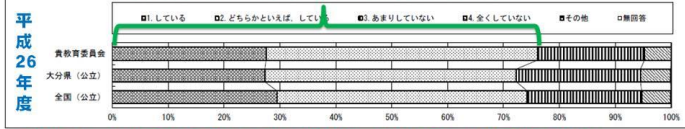


基本的生活習慣、自尊意識(中3)

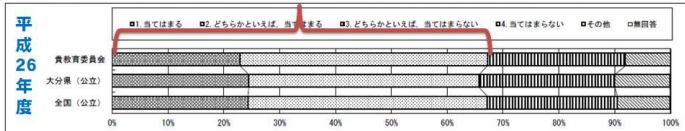
朝食を毎日食べている生徒は全国より多い



毎日、同じくらいの時刻に寝ている生徒は全国より多い

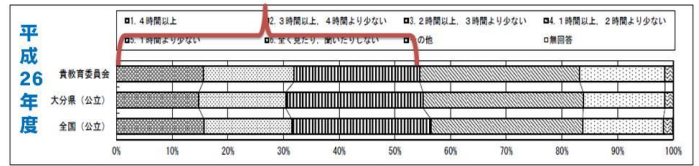


自分には、よいところがあると答えた生徒は全国と同程度だが、7割に達していない

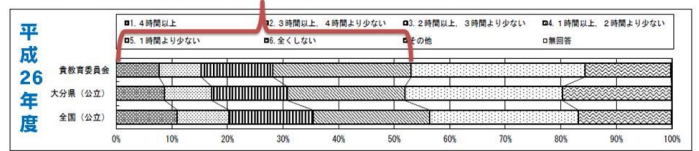


平日のテレビ、ゲームなど(中3)

2時間以上テレビを見る生徒は多い(25年度より少し減少)



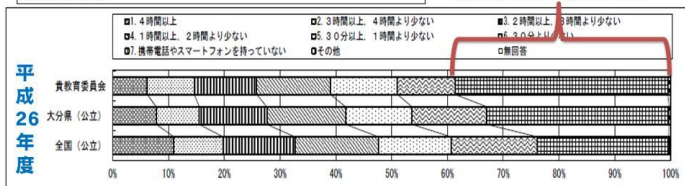
ゲームを1時間以上する生徒が増加している



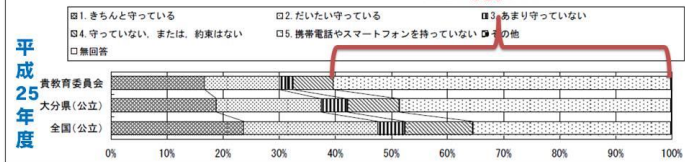
携帯電話やスマートフォンなど(中3)

携帯電話やスマートフォンを持っている生徒が増えている

携帯電話やスマートフォンを持っていない生徒は38%



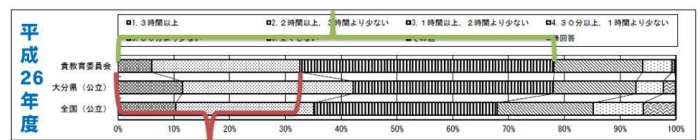
H25年度は60%



学習時間(塾や家庭教師含む 中3)

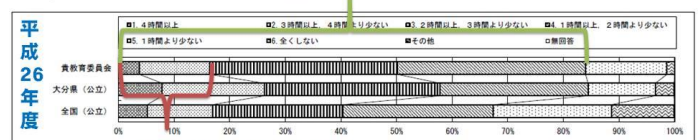
平日 1時間以上学習する生徒は全国より多い

1時間以上学習する生徒が少し増えた



2時間以上学習する生徒は全国より少ない

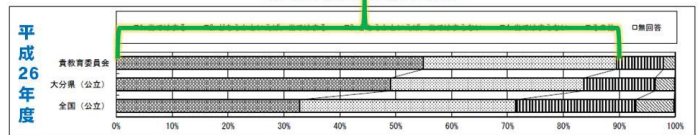
1時間より長い子が全国より多い
H25年度より増加している



中学校授業の様子

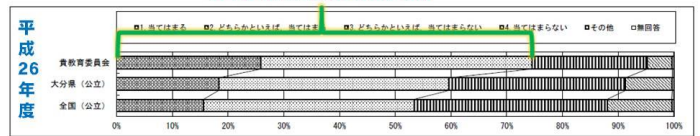
授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたか

あると答えた生徒が多い



学習内容を振り返る活動を行っていたか

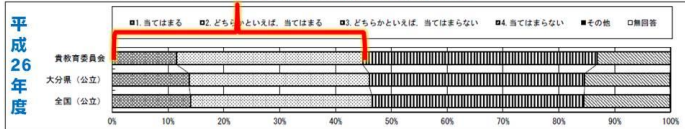
していると答えた生徒が多い



中学校授業の様子

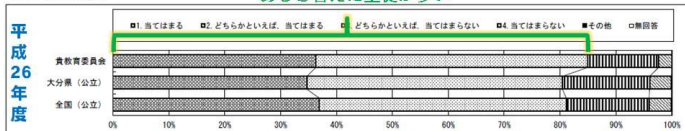
グループで調べる活動

していると答えた生徒が少ない



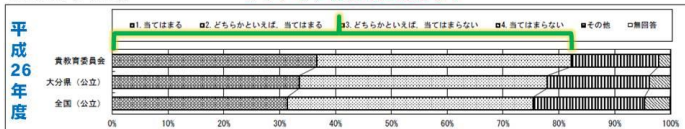
発言の機会

あると答えた生徒が多い



話し合う活動

していると答えた生徒が多い



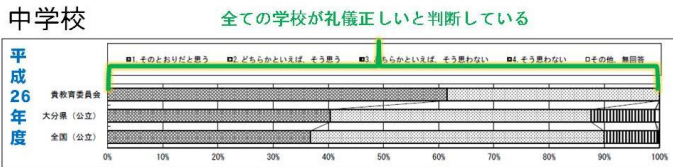
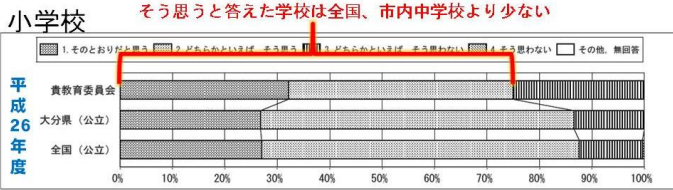
2 児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- 毎日朝食を食べることや、規則正しい生活を送ること、ゲームやテレビの時間、携帯電話やスマートフォンの扱いに関するルール作り等、望ましい生活リズムの確立を目指して家庭と連携した取組を進める必要がある。
- 家庭学習の習慣が身についている児童・生徒は多い。さらに充実したものを目指し、授業と宿題をつないだ家庭学習の時間の意図的・計画的な拡充を進める必要がある。
- 中学校において、グループで調べることや、話し合う活動を充実させる必要がある。
- 授業のはじめに、目標は示されているが、学習内容を振り返る活動を充実させる必要がある。

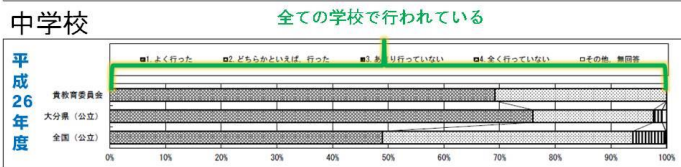
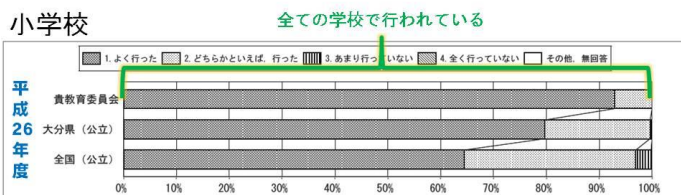
平成26年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

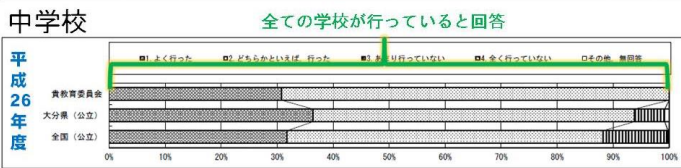
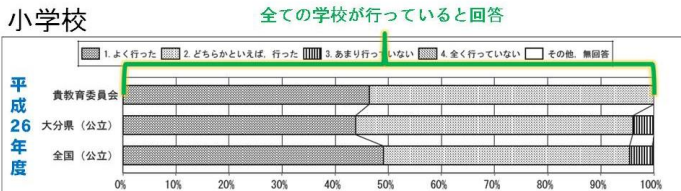
調査対象学年の生徒は、礼儀正しいと思うか



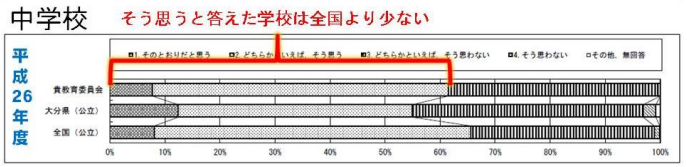
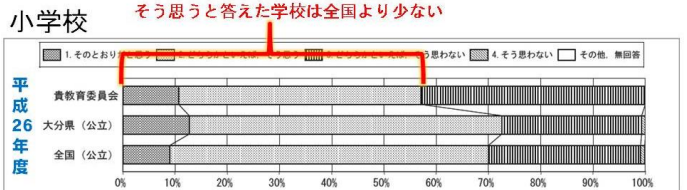
授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を取り入れたか



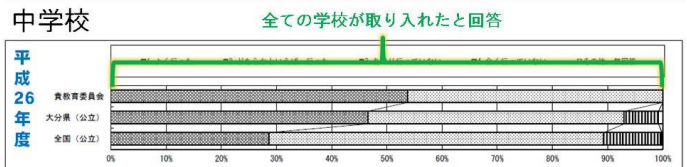
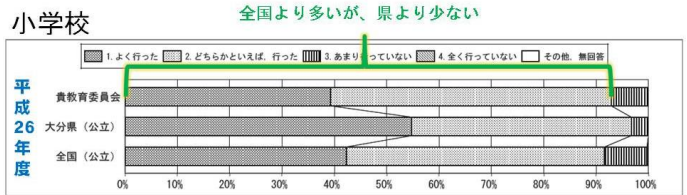
学級やグループで話し合う活動を授業などで行ったか



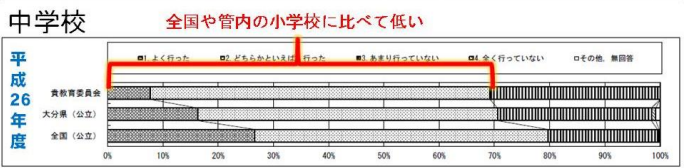
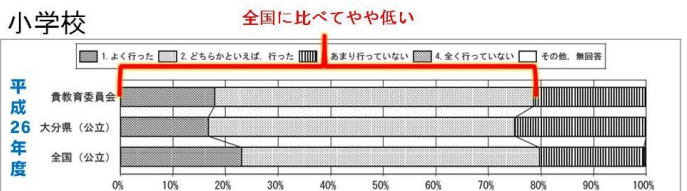
話し合いなどの活動で、自分の考えを伝えることができてるか



授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたか



総合的な学習の時間において、探究の過程を意識した指導を行ったか



2 学校質問紙調査の結果をふまえて

- どの学校においても、児童生徒は礼儀正しいと評価されている。
- 話し合い活動等の中で、自分の考えを伝えることについて課題を感じている学校が多い。
- どの学校においても授業改善が進んでおり、目標を示すことや、話し合う活動、学習内容を振り返る活動を取り入れた授業を行っているとは回答されているが、児童生徒の捉え方との差が見られる。
- 総合的な学習の時間において、探究の過程を充実させた取組の改善を進めていく必要がある。

今後の取組について

平成26年度の全国学力・学習状況調査と大分県学力定着状況調査の結果をもとに、佐伯管内の課題から各学校が共通して取り組む事項として「今後の学力向上に関する取組の徹底」を改訂し、課題の改善に向けた取組を進めていきます。

改訂版 2014.9.5

今後の学力向上に関する取組の徹底（佐伯市教育委員会・佐伯教育事務所）

□共通

1 条件を付けて読み書きする指導の徹底

- ア) 学校図書館を活用し、並行読書・比べ読み・ブックトーク等、本に親しむ活動を実施する。
- イ) 一定時間内に文章・図表等から必要な情報を取り出す活動を実施する。
- ウ) 思考ツール等を活用して情報の整理・分析を行い、立場や根拠を明確にさせる。
- エ) 構成、字数、キーワード等を指定し、条件に従って書く活動を授業の中に設定する。

2 年間・単元指導計画に位置付けた過去問題の授業・評価への活用

- ア) B問題に求められる思考過程を各教科の授業の中で再現する学習活動を仕組む。
- イ) 授業で学んだことが転用できるか、定着が不十分な事柄がないかA問題及びB問題で評価・確認し、必要に応じて補充する。

□小学校

1 授業と宿題をつないだ家庭学習の時間の意図的・計画的な拡充

- ア) 学習内容の定着確認・補充・応用練習、課題に沿って調べさせたり考えさせたりする等の宿題を意図的・計画的に課す。
- イ) 生活実態アンケートの分析等の情報を保護者に発信するとともに、望ましい生活リズムの確立に向けた具体的な手立てを共に考える。

2 2か月程度を単位とした評価テスト等の確実な実施

- ア) 学期の半ばや終わりに2～3の単元等を範囲として評価し、補充する。
- イ) 各学年の課題や対策を学年外とも共有し、全校体制で改善に取り組む。

□中学校

1 全ての教科等における言語活動の充実に向けた授業改善

- ア) 「課題→見通し→自力解決→交流→まとめ・振り返り」の流れを確立する。
- イ) プレゼンテーション・討論会・レポート等、付けたい力に即した言語活動を単元の中に位置付ける。

2 「活用する力」の育成に向けた総合的な学習の時間の改善

- ア) 関係小学校の総合的な学習の時間のカリキュラムを把握し、自校のカリキュラムを改善する。
- イ) 「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」という探究の過程を充実させる。